

やけどについて ～症状と応急処置～

令和4年11月

宮崎江南病院 形成外科病棟

やけど（熱傷）とは？

皮膚に高温が作用した為に起こる傷害。高温の液体や固体が一定時間以上接すると生じる。

- ・ 熱湯や高温の油をかぶってしまう
- ・ アイロンやストーブに当たってしまう
- ・ 熱いお風呂に誤って落ちてしまう



やけど

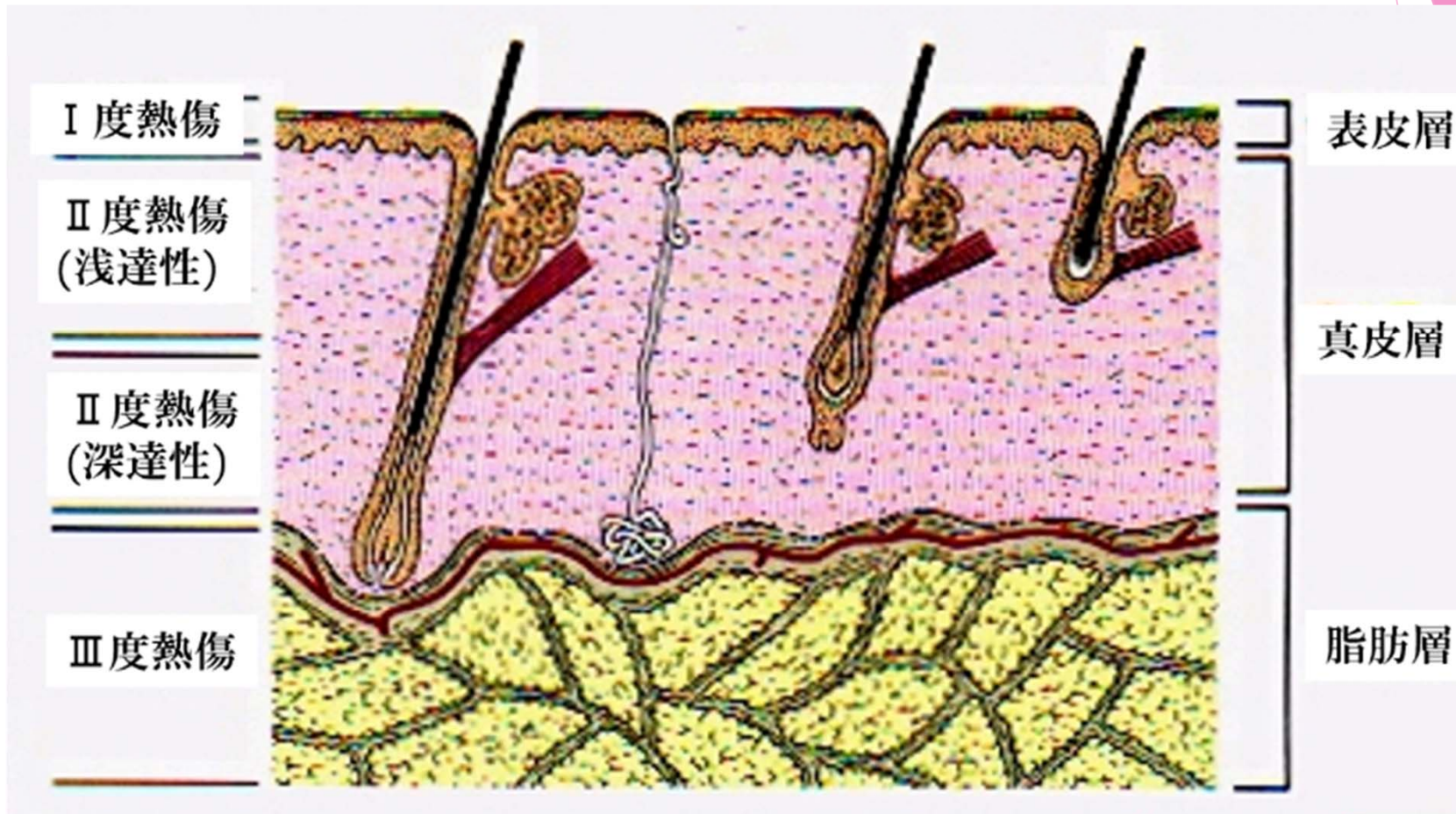
やけどの原因（具体例）

夏 日焼け

冬 低温やけど



やけど（熱傷）の深さ



やけどの症状

< I 度熱傷 >

表皮のみが傷ついている場合。

発赤（皮膚が赤くなる）や腫脹（腫れ）がみられ、ヒリヒリとした灼熱感や痛みがある。

一時的に傷跡が残ってしまうこともあるが、数日で自然に治り、やけどの跡が残らない。



やけどの症状

Ⅱ度熱傷、2種類あります！

せんたつせい
＜浅達性Ⅱ度熱傷＞

きていそう
表皮基底層（真皮上層）までの損傷。
症状として、発赤・浮腫性腫脹・水ぶくれが見られる。
水疱が破れてただれを起こし、痛みや熱さが強く生じます。

しんたつせい
＜深達性Ⅱ度熱傷＞

真皮深層までの損傷。
発赤・水ぶくれ・びらん・浅い潰瘍などが生じるが、
痛み自体は軽い。水ぶくれの下の皮膚が白くなります。



やけどの症状

＜Ⅲ度熱傷＞

皮下組織（皮膚の深いところ）までの損傷。
痛みを感じる神経も焼けており、痛みは感じない。
肌の表面が壊死している場合もある。
傷ついた表面は白く乾燥しており、酷い場合は
焦げている。皮膚が引っ張られる感覚や、機能障害が
起こる場合がある。



もし、やけどをしたら・・・

すぐに冷やす（やけどした部位を冷却する）ことが大切！！

15～30分程度冷却すると効果あり！

冷やすことで、やけどの進行を止め、痛みを抑えることができます。

冷却する際に、衣服は脱がないようにする
→無理に脱ぐと水ぶくれが割れて痛みが強くなってしまう。

※冷やしすぎると凍傷の危険あり！



やけどをした部位は
時間が経過すると
腫れていきます。



時計や指輪などの装飾品は
早めに外しましょう！！



低温やけどについて

湯たんぽや使い捨てカイロなどに
長時間接触することで起きる



低温やけどはダメージを深く受けているにもかかわらず、通常のやけどに比べて見た目が軽く見えてしまい、気付かないで過ごしてしまうことが多い。



低温やけどを放置していると・・・？

水ぶくれが出来る等、
徐々に症状が進行していく。

自覚した頃には既にかかなり進行している
場合が多い！
発見が遅れると治療が長引いたり、手術が
必要になる場合があります。



受診のタイミング

- ① やけどの範囲が広い場合
(やけどをした本人の手のひらよりも大きい場合)



受診のタイミング

- ②皮膚が赤く腫れて水ぶくれができている場合
強い痛みが治まらない場合



受診のタイミング

③皮膚の色が白、もしくは黒色となっており、
痛みを感じない場合



まとめ

自己判断で消毒薬を使用すると、今後の治療に支障が出る場合があります。
やけどをしたら患部を冷やして早めに医療機関の受診をしましょう！

清潔なガーゼやタオルで患部を覆い、出来るだけ綺麗な状態で、速やかに皮膚科・形成外科へ受診を！



ご清聴ありがとうございました。

